

千三百人が参加した町会の自主的な水害避難訓練

尼崎市議 田村征雄

兵庫県尼崎市の北東部にある田能（約二千五百世帯）、椎堂（約九百世帯）、東園田町（約一万千世帯）は、猪名川と藻川に囲まれた中洲に発展した住宅地です。（地図）昔から「島の内」といわれてきました。ここには、ほぼ三万三千二百人（うち六五歳以上の高齢者は五千二百人）が生活しています。

一九三八年の集中豪雨により地域全体が一メートルも浸水したことがあり、地域のところどころには当時の浸水の高さを表す掲示板が立てられています。戦後もいくどとなく浸水が繰り返されてきました。その後、猪名川の一部は、河川の流路改修工事がおこなわれ改善した点もあります。

こうした地域的な特徴をもつ東園田町で、はじめて町会主催の自主的な避難訓練にとりくみ、住民のコミュニティー意識を醸成しました。

新潟・福井・兵庫の教訓をいかして

二〇〇四年は、六月から秋にかけて連続して台風が上陸するなど日本列島が自然災害に見舞われた年でした。

新潟、福井、兵庫県などで堤防が決壊して、高齢者などに犠牲者が出る深刻な状況が、テレビで報道されました。

台風二十三号が兵庫県を通り過ぎる際には、私の住んでいる東園田町をはさむ藻川、猪名川も警戒水位を越え、市は東園田町に避難勧告を発令しました。しかし、その情報は不徹底であり、実際に避難した住民はいませんでした。

東園田町会長の古川育宏氏は、避難場所の園和小学校にいったところ「鍵がかかったままであった」と後に語っています。

その年、淀川水系の「河川整備計画」について学識経験者の意見を聞く場である淀川水系流域委員会の公募委員の東園田町在住の細川ゆう子氏が、福井県足羽川や兵庫県円山川の堤防の決壊現場を視察して、「東園田町会報」に、水害に対する備えや藻川の堤防強化などの問題を提起する記事を載せています。

私は、〇四年十二月議会の一般質問で、細川氏の視察報告を参考に、市として、管理者である国に藻川の堤防の強度調査を求めるよう質問しました。当局は、「堤防補強対策などの河川整備を国に要望し、促進したい」と答弁しました。（その後、補強工事が進められ二〇〇六年三月に完了しています）

私は、東園田町会の顧問を委嘱されており、町会の理事会などさまざまな会合では、万一に備えた水害避難訓練の必要性を述べ、また古川会長自身も「一人も犠牲者を出さない備えが必要」と強調してきました。そして、東園田町会として、防災ウオッチングや講演会に取り組み、避難訓練へと発展していきました。

町会、議会での取り組み

水害への備えについての、東園田町会などの取り組みや私の議会質問は、次のような内容です。

- 四年九月 東園田町会が「防災について」尼崎市の出前講座を開催
- 四年九月 東園田町会報に、細川さんが福井豪雨の視察等の報告を掲載
- 四年十二月 東園田町会報に、細川さんと町会総務部長の岩田さんが、兵庫県豊岡市の豪雨の視察等について、それぞれの報告を掲載
- 四年十二月 議会 私が、藻川・猪名川の堤防強度調査にもとづく補強工事や中洲にある立木、流木の処理を求める質問をする
- 五年一月 尼崎市が防災マップ（ハザードマップ）を全戸配布
- 五年二月 東園田町会が、藻川・猪名川の堤防と避難先確認の「防災ウォッチング」実施、七十人参加
- 五年二月 社会福祉連絡協議会園田支部が「防災講演会」を開催。「氾濫の事例紹介と猪名川・藻川の状況」について、国土交通省猪名川河川事務所調査課長が講演
- 五年三月 私が市議会で、「市は防災マップを配布したが、万一に備えた避難訓練の実施を行うべきではないか」と質問
- 五年六月 町会役員会で、各丁目ごとに防災対策委員三人を選出
- 五年七月 東園田町会の各丁目別に地区防災ウォッチングを実施。公共的施設、高層マンションなどの所在の確認、避難の可能性をウォッチング
- 五年十月 東園田町会として避難訓練の計画の具体化を検討
- 五年十月 国土交通省が藻川の堤防補強工事を開始
- 六年三月 東園田町総合会館に横断幕を掲示し、避難訓練のPR活動に努める
- 六年三月十一日 避難訓練のための「事前学習会」を東園田町会等が主催。テーマ「洪水時の避難行動とハザードマップ」 講師は群馬大学工学部片田敏孝教授
- 六年三月二十六日 水害避難訓練を実施、千三百人が参加しました

いよいよ避難訓練へ

講演会などの取り組みをつうじて、いよいよ「避難訓練が必要」との気運が高まり、町会総務部を中心に、避難訓練の計画が具体化されました。

避難訓練計画案がまとまった○五年十月には、古川会長、総務部長らが尼崎市の防災担当課、市社会福祉協議会本部、同園田支部との協議の場を持ち、基本的に合意しました。避難先の園和小学校長、尼崎北警察署長、尼崎北消防署園田分署長らに計画の内容を説明し協力を要請しました。

また、ポスター掲示、ビラ配布などで、積極的に参加してもらうようPR活動に努

めることも確認されました。

具体的な訓練は、「前日、夜半に猪名川上流で集中豪雨があり、堤防決壊の恐れが高まった」という想定で実施されました。訓練当日は、午前九時半に尼崎市長が避難勧告を発令、町会長が各地区長に伝達し、各地区ごとの公園や広場などの集合場所に集まり始めました。そして十時ごろから園和小学校に向け避難を開始しました。

町会役員は当初、避難者数の目標を千人としていましたが、実際には千三百人に達しました。

避難所になった園和小学校校庭では、婦人部の人たちがつくった千食の避難食の豚汁が振る舞われ、防災展示、救助実演もおこなわれました。

子ども連れの家族そろっての参加や高齢者を車イスに乗せての参加、また町会の会員でない人なども、かなり参加しました。避難訓練が、住民の要求にこたえたとりくみであったことをしめしていると思います。

当日のまとめの集会では、古川会長が「いざというときに、一人も犠牲者を出さないよう、みんなが一緒になって安全・安心の町にしていましょ」とよびかけ、白井文尼崎市長は「町会が自主的に避難訓練するのは全国的にも少ない、このようなとりくみができたことを誇りに思う」とあいさつしました。

また参加者からは、「予想を超える参加者があったのは、地域住民が感じていた洪水の危険性を町会が的確に取り上げたこと、地区役員が手分けして参加をよびかけた結果である」などと感想が寄せられました。

私たちの地域では、こうした避難訓練を毎年積み重ねることにより、いざ災害というときに犠牲者を出さない、住民自治のとりくみに発展させていくことができるのではないかと確信しています。

なお、当日の写真、映像などは、尼崎市東園田町会のホームページを参照願います。

アドレスは <http://www.sh-choukai.com/> です。（たむらいくお）